

# 病害発生予測情報の RSS 自動配信システム

これまでも、Web から利用できる病害発生予測モデルのプログラムを開発してきました。しかし、それを病害防除の適期を判断するために利用するには、利用者が日常的にサイトにアクセスしてプログラムを実行し最新の病害発生予測情報を得る必要がありました。そこで、利用者がいちいちアクセスしなくても、RSS というインターネット情報配信のしくみを利用して最新予測情報を利用者のパソコンや携帯電話に自動配信するシステムが開発されました。

## ☆ 技術の概要

1. 本システムは、Web サーバ上で作動し、病害発生予測モデルのプログラムに定期的にアクセスして自動実行するプログラム、予測結果を格納するデータベース、一般利用者用の RSS・HTML 情報配信インターフェース、情報管理者用の配信情報設定インターフェースから構成されています (図 1)。
2. 情報管理者 (研究者や普及員等) が、配信情報設定インターフェースを利用して、病害発生予測を行う対象地域の気象観測地点、ならびに更新間隔日数を設定すると、その設定に従った予測情報に関する、RSS および Web ページが自動生成されます。
3. 一般利用者 (生産者等) は、一度、配信されている対象の病害と地域を登録すれば、ブラウザや携帯電話の RSS リーダーを用いて、最新の病害発生予測情報を自動取得できます。自動配信された更新情報一覧でいずれかの日付をクリックすると、その日付における詳細な予測結果 (時別の感染程度等) が記載された Web ページが表示されます (図 2)。

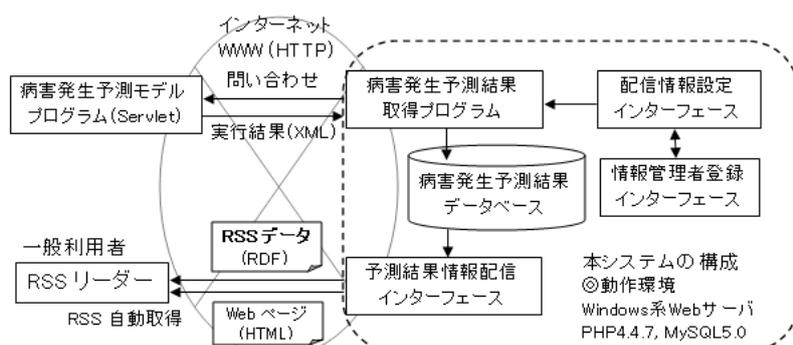


図1 病害発生予測情報の RSS 自動配信システムの全体概要

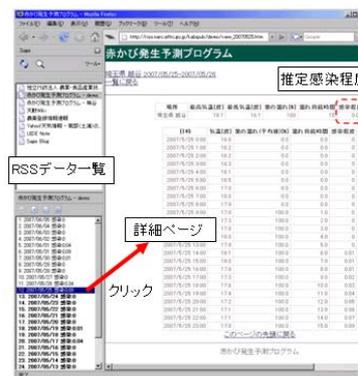


図2 RSS リーダーによる病害発生予測情報の RSS 取得および詳細ページ表示の画面  
RSS 取得機能のある Web ブラウザ Firefox2 を利用

## ☆ 活用面での留意点

1. 本システムは現在、中央農研内の研究用 Web サーバにおいて、主にコムギ赤かび病の発生予測情報の配信を目的として試験運用されています。
2. 生育予測モデルなど他のプログラムについても、本システムの配信情報設定インターフェース等をカスタマイズすれば適用可能となります。
3. 詳細はフィールドモニタリング研究チーム (Tel: 029-838-7177) にお問い合わせください。

(中央農業総合研究センター 研究管理監 二宮正士)